

版画家群像 大正・昭和のベスト・セレクション

開催要項

- 【展覧会名】 版画家群像 大正・昭和のベスト・セレクション
小野忠重版画館 + 町田市立国際版画美術館 収蔵品
- 【会期】 2012年6月23日(土)～7月29日(日)
月曜日休館 但し、7月16日(月・祝)開館、17日(火)休館
- 【会場】 町田市立国際版画美術館
〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1
TEL042-726-2771
- 【主催】 町田市立国際版画美術館
- 【協力】 小野忠重版画館
- 【観覧料】 一般 600円(500) 大・高生・65才以上 300円(200)
中学生以下無料
()内は20名以上の団体料金
展覧会初日6月23日は無料
- 【開場時間】 火～金 午前10:00～午後5:00(入場は午後4:30まで)
土・日・祝 午前10:00～午後5:30(入場は午後5:00まで)

【開催趣旨】

版画家で版画史研究者でもあった小野忠重(おの ただしげ、1909-90)が集めた貴重な版画コレクションと、町田市立国際版画美術館が25年間にわたって収集してきた近代日本版画コレクションを合わせた作品群のなかから、個性的で内容豊かな創作版画を制作した版画家の作品をセレクトし、約30作家・230点によってその魅力を紹介します。あわせて表現内容を探ります。

明治30年代後半、当時盛んに発行されていた印刷物や複製的な性質の版画を批判して、「創作版画」とよばれる作品を制作する美術家が登場しました。その作品は、画家自身が直接木版を彫ったり石版に絵を描いたりすることを原則とし、オリジナルであることを重視した版画でした。それ以後創作版画は、木版画を中心に新しい表現形式として美術界に迎えられ、多くの制作者を生み出すこととなります。

また、創作版画を制作する版画家は、洋画家や彫刻家と同様に、大正から昭和期に隆盛したさまざまな美術思潮を吸収し、時代が要請するテーマを率直に、個性的に表現していきました。たとえば個性を追い求めた大正時代には、恩地孝四郎や田中恭吉らが『月映』(つくはえ)を発行し、青年期特有の複雑な心情を木版画に赤裸々に刻み込んでいます。大震災からの復興を遂げた昭和初

期には、谷中安規(たになか やすのり)がモダン都市東京の相貌を不安感と共に個性的に描き出しました。

町田市立国際版画美術館では、2009年に「生誕100年 小野忠重展—昭和の自画像—」を開催しました。本展覧会は、その小野忠重が多くの版画仲間との交流によって集めた大量の版画コレクションと当館の収蔵品から厳選(ベスト・セレクト)し、4部構成によって展示・紹介することで、近代の日本版画の魅力に迫ります。

【展覧会構成】

I 情調を表現する: 「方寸」の作家、その行方

【出品作家】^{やまもとかぢえ}山本鼎 / ^{いしいはくてい}石井柏亭 / ^{おだかずま}織田一磨 / ^{さかもとはんじろう}坂本繁二郎

II 「生」の探求: 内面を表出する

【出品作家】^{とばりこがん}戸張孤雁 / ^{ひろしましんたろう}広島新太郎 / ^{おんちこうしろう}恩地孝四郎 / ^{たなかきょうきち}田中恭吉など

III モダン都市の相貌: 新しい生活と造形感覚

【出品作家】^{あぜちうめたろう}畦地梅太郎 / ^{ひらかわせいぞう}ワルワラー・ブブノワ / ^{たになかやすのり}平川清蔵 / ^{おのただしげ}谷中安規 / ^{おのただしげ}小野忠重 / ^{ふじまきよしお}藤牧義夫など

IV 戦時下に創る: モダニズムとナショナリズムのはざままで

【出品作家】^{むなかたしこう}小野忠重 / ^{むなかたしこう}棟方志功 / ^{あぜちうめたろう}畦地梅太郎 / ^{せきのじゅんいちろう}関野準一郎など

【関連催事】

- 1 館長によるスペシャル・トーク 7月14日(土) 午後2:00より45分程度
- 2 学芸員によるギャラリー・トーク 6月24日、7月1日、15日、29日 (いずれも日曜日)
午後2:00より45分程度
- 3 活版印刷体験・イベント 6月23日(土)、7月7日(土)、8日(日)、28日(土)
各回とも午後1:30~3:00(1人の所要時間は3分程度) 会場:美術館エントランスホール
- 4 活版ゼミナール 6月30日(土)
午後1:30~3:30(1人の所要時間は5分程度) 会場:美術館エントランスホール

【公式サイト】 <http://hanga-museum.jp/>

【問い合わせ】

町田市立国際版画美術館 担当者:学芸員 滝沢恭司
〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1
TEL: 042-726-2771 / 0860 FAX: 042-726-2840
e-mail: bunspo040@city.machida.tokyo.jp